

1. 施策の目的と目標

□基本方針	3. 状況に応じて適切に交通手段を「つかう」	□目的	過度に自動車に依存した状態から脱却し、自動車と公共交通、自転車などを適切に使い分けできる社会への転換を図るため、公共交通の運賃負担の軽減や運行時間帯の拡大など運行サービスの質の向上により、誰もが公共交通を利用しやすい環境を整備するとともに、市民の意識転換に向けた取組を推進する。			
□施策の体系	(1) 公共交通をより便利で快適にする (2) 公共交通に関する案内情報を充実させる		(3) 安全・安心な交通環境を整備する (4) 自動車から公共交通へ移動手段を転換する			
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	① 公共交通の年間利用者数	3,353万人 (H28年)	3,039万人 (R1年)	3,600万人 (R10年)	93.1% ⇒ 84.4%	減少している (鉄道の集計方法が前年度の年間利用者数としていることなど、新型コロナウイルス感染症による影響を正確に反映できていないことから今後あらためて実態を把握していく。)
	② 交通での移動に関する市民満足指標 ・公共交通ネットワークの充実 ・道路ネットワークの充実 ・自転車のまち宇都宮の推進	25.1% 39.1% 26.1% (H29年度)	26.1% 35.5% 30.2% (R2年度)	38.4% 52.4% 39.9% (R10年度)	65.4% ⇒ 68.0% 74.6% ⇒ 67.2% 65.4% ⇒ 75.7%	概ね向上している
	③ 人にやさしいバスの導入率	53.2% (H29年度)	59.8% (R2年度)	77.6% (R10年度)	68.6% ⇒ 77.1%	着実に増加している

2. 重点事業の実施状況と評価

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 △:一部未達成

施策事業名	事業主体	R1年度 実施状況	R2年度 当初予定	R2年度 実施状況	R2年度 評価(◇成果◆課題)	R3年度 当初予定
3-(1)-① バスの定時性・速達性の向上	交通事業者 宇都宮市	○交通ICカードの導入に伴うバスの中扉乗車への移行に向けた調査等 ⇒支障物件の除却等の必要箇所数, 改良費用等の精査 ⇒支障物件の除去工事等の実施に向けた道路管理者との協議・調整	○ICカードの導入に伴うバス停の中扉乗車への移行に向けた, バス停留所の支障物件除却等工事の実施 ⇒ ガードレール・植栽等の移設・除却 ○ICカードの普及促進【再掲】	○交通ICカードの導入に伴うバス停の中扉乗車への移行に向けた, バス停留所の支障物件除却等工事の実施 ⇒宇都宮エリア約180か所 ○交通ICカードの普及促進策の実施 ⇒自治会回覧やラジオ, 大型映像装置など様々な媒体を活用したICカードの普及促進を図る取組の実施	◎ ◇交通ICカードの導入に伴うバスの中扉乗車への移行に向け, バス停留所の支障物件除去工事を各道路管理者と連携して実施するなど, 定時性・速達性の向上に向けた取組を着実に推進している。 ◆交通ICカードの導入による定時性・速達性向上の効果をより高めるため, 交通ICカードの更なる普及促進に取り組む必要がある。	○ICカードの普及促進【再掲】 ⇒導入による効果をさらに高めるため, カード非保有者をターゲットとした広報活動を実施
3-(2)-② バスの運行情報の提供	交通事業者 宇都宮市	○バスロケーションシステムの導入 ⇒GPS機器の設置及び管理システムの整備等(旧東野交通車両) ○バス接近表示機の設置【再掲】 ⇒「済生会宇都宮病院前」バス停	○バス接近表示機の設置【再掲】 ⇒「雀宮駅入口」バス停	○バス接近表示機の設置【再掲】 ⇒次年度以降に先送り	△ ◇新型コロナウイルス感染症等の影響により, バス接近表示機の設置を令和3年度以降に先送りにするなど, 取組が停滞している。 ◆より多くの人々がバスの運行情報を得られるよう, バスロケーションシステムの周知に取り組むとともに, バス接近表示機について, 利用者の多いバス停などへの優先化を図りながら, 設置に取り組む必要がある。	○整備優先箇所の検討 ⇒バスと地域内交通連携強化のための乗り継ぎポイントにおける接近表示機の設置について, 次年度以降の整備箇所を事業者と継続的に検討 ○バスロケーションシステムの周知
3-(2)-③ 公共交通の案内サインの充実	交通事業者 宇都宮市	○公共交通の案内サイン等の整備 ⇒宇都宮駅西口バス乗り場における大谷方面の案内表示の充実	○公共交通の案内サインの充実に向けた検討 ⇒案内サインの整備に向けた考え方の整理 ⇒整備箇所, 整備手法等の検討 ○外国人観光客受入体制整備補助金による, 案内サイン設置の促進	○外国人観光客受入体制整備補助金による, 案内サイン設置の促進 ⇒申請なし	△ ◇新型コロナウイルス感染症等による, 外国人観光客の減少などの影響もあり, 補助制度の申請はなかった。 ◆JR宇都宮駅西口の再整備に伴うバス乗降場の見直しと併せて案内サインの整備内容を検討する必要がある。	○公共交通の案内サインの充実に向けた検討 ⇒案内サインの整備に向けた考え方の整理 ⇒整備箇所, 整備手法等の検討 ○外国人観光客受入体制整備補助金による, 案内サイン設置の促進

施策事業名	事業主体	R2年度当初予定	R2年度当初予定	R2年度実施状況	R2年度評価(◇成果◆課題)	R3年度当初予定
3-(3)-② 交通施設のバリアフリー化の推進	交通事業者 宇都宮市	○西川田駅バリアフリー化設備整備 ⇒令和2年度に実施予定 ○雀宮駅バリアフリー化設備整備 ⇒内方線付点字ブロック整備	○西川田駅バリアフリー化設備整備 ⇒エレベーター設置, 多機能トイレ等	○東武西川田駅バリアフリー化設備整備 ⇒エレベーター3基・スロープ・多機能トイレ新設	◎ ◇西川田駅のバリアフリー化設備工事について, エレベーター設置, 多機能トイレの新設等, 交通施設のバリアフリー化が着実に推進されている。 ◆誰もが利用しやすい交通環境の整備に向けて, 引き続き, バリアフリー化がされていない他の駅について, 法改正など, 社会情勢の変化を踏まえながら適宜, 事業者働きかけていく。	○バリアフリー化に向けた鉄道事業者への要望
3-(4)-① モビリティ・マネジメント施策の推進	バス事業者 地域住民 運輸支局 栃木県 宇都宮市	○企業MM ⇒LRT沿線・バス路線再編エリアの企業等との意見交換の実施 ○学校MM ⇒バスの乗り方教室の実施(6校) ○転入者MM ⇒バス路線マップの作製・配布 ○市民MM ⇒広報紙を活用した意識啓発 ⇒新成人を対象とした啓発チラシの配布 ⇒ラジオを活用した情報発信 ⇒「宇都宮MaaS社会実験」への参画(実施主体:早稲田大学等) ○エコ通勤の推進 ⇒エコ通勤推進デーの実施(毎月第1・3水曜) ⇒県統一行動週間への参画	○市民MM ⇒広報紙を活用した意識啓発 ⇒新成人を対象とした啓発チラシの配布 ⇒ラジオを活用した情報発信 ○転入者MM ⇒バス路線マップの作製・配布 ○学校MM ⇒バスの乗り方教室の実施 ○庁内MM ⇒エコ通勤推進デーの実施(毎月第1・3水曜) ○企業MM ⇒バスへの利用転換に向けて, 企業等とのバス路線再編案に関する意見交換を実施	○市民MM ⇒広報紙を活用した意識啓発の実施「広報うつのみや」 ・バスの利用方法や時刻表の検索方法等の周知(4月号) ・「新しい生活様式」を踏まえたバスの利用方法の周知(9月号) ○転入者MM ⇒芳賀・宇都宮バス路線マップの作製・配布(宇都宮市分18,000部) ○学校MM ⇒小学生を対象としたバスの乗り方教室の開催(1校)	○ ◇新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ, 混雑を回避するために積極的な利用促進を控えるなど影響はあったものの, 小学生へのバスの乗り方教室の開催や, 新しい生活様式を踏まえたバスの利用方法の周知など, 社会状況の変化に対応した意識啓発を推進している。 ◆既存のモビリティ・マネジメント施策に継続的に取り組むとともに, 更なる利用促進に向けて, 上限運賃制度の導入やバス路線再編などによる公共交通ネットワークの変化などに併せた効果的な意識転換・利用転換策を実施する必要がある。	○市民MM ⇒広報紙をはじめとした多様なメディアを活用した意識啓発 ⇒バス路線再編に関する沿線地区説明会等の機会を捉えた意識啓発 ⇒上限運賃制度の導入と併せた意識転換・利用転換策の実施 【転入者MM】 ⇒バス路線マップの作製・配布 【学校MM】 ⇒小学生を対象としたバスの乗り方教室の開催 【通勤・通学者MM】 ⇒バス路線再編と併せた, 通勤手当などへの影響を踏まえた, 効果的な利用転換策の検討

3. 施策の評価

<3-(1)>公共交通をより便利で快適にする

【成果】

・交通ICカードの導入と併せたバスの中扉乗車への移行に向けた停留所の改良工事を実施するなど, 定時性・速達性の向上に向けた取組が推進されている。

【課題】

・誰もが公共交通を利用しやすい環境の整備に向けて, 引き続きバスの待合環境整備に取り組むとともに, 運行時間帯の拡大等について, バス路線の再編と併せて検討していく必要がある。

4. 施策の方針

<3-(1)>公共交通をより便利で快適にする

・ICカード導入による定時性・速達性の更なる向上に向けて, 交通ICカードの普及促進に取り組むとともに, 公共交通の利便性向上に向けて, バス路線の運行時間帯の拡大などについても再編と併せて検討していく。

<3-(2)>公共交通に関する案内情報を充実させる

〔成果〕

・交通ICカード導入に伴うバスの乗り方の変更についてお知らせするとともに、継続してバス路線マップの作成・配布やバス総合案内システムによる情報提供に取り組んでいる。

〔課題〕

・市民や来訪者が円滑に公共交通を利用できるよう、バス停留所やトランジットセンター等において、接近表示機や案内サインの整備に取り組むとともに、利用者が目的地に向かうバスを識別しやすくなるよう、バスの方面別系統番号の導入について検討するなど、公共交通に関する案内情報の更なる充実に取り組む必要がある。

<3-(3)>安全・安心な交通環境を整備する

〔成果〕

・西川田駅へのエレベーター等の設置に取り組むとともに、路線バス車両へのノンステップバスの導入に継続的に取り組むことで、公共交通のバリアフリー化が着実に進捗している。

〔課題〕

・子どもや高齢者、障がい者をはじめ、誰もが利用しやすい安全で安心な交通環境を整備するため、引き続き、鉄道駅へのエレベーターの設置やノンステップバス、ユニバーサルデザインタクシーなど、公共交通のバリアフリー化に継続的に取り組む必要がある。

・LRTの開業後を見据え、引き続き、LRTの乗り方やLRT導入後の交通ルールについて、広域を含め、周知を図る必要がある。

<3-(4)>自動車から公共交通へ移動手段を転換する

〔成果〕

・各種モビリティ・マネジメント施策に取り組むことにより、自動車から公共交通利用への転換に向けた市民の意識啓発が図られている。

〔課題〕

・高齢者の運転免許証の自主返納件数の増加など、社会環境の変化を捉えるとともに、LRT開業やバス路線再編などの公共交通ネットワークの変化を見据え、自動車から公共交通への利用転換につながる効果的なモビリティ・マネジメントに取り組む必要がある。

<3-(2)>公共交通に関する案内情報を充実させる

・公共交通の案内情報の更なる充実に向けて、引き続き、交通結節点などの利用者の多いバス停やトランジットセンターなどへの案内サインや接近表示機の設置に取り組むとともに、バス路線の再編に向けた検討と併せて、バスの方面別系統番号の導入についても検討していく。

<3-(3)>安全・安心な交通環境を整備する

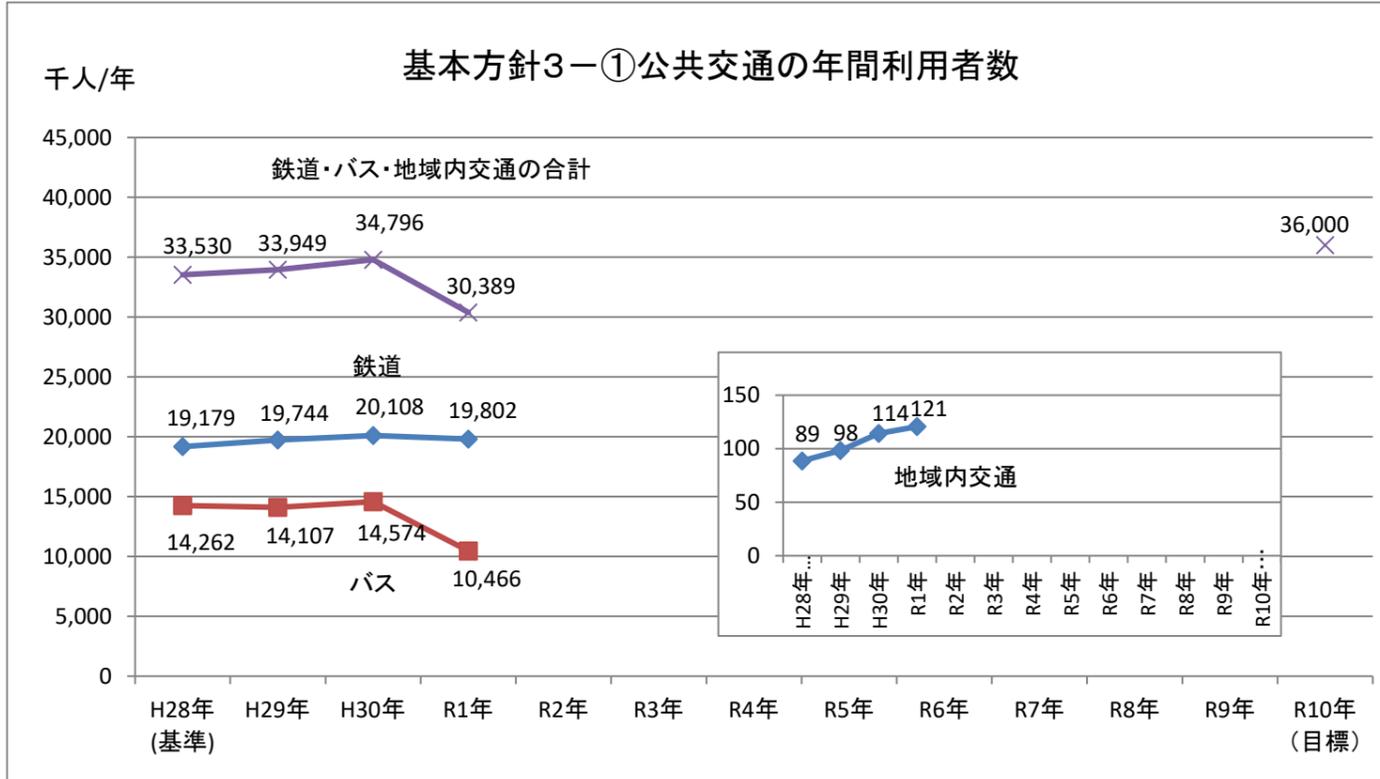
・安全で安心な交通環境の整備に向けて、引き続き、鉄道駅のバリアフリー化や計画的なノンステップバスの導入などに取り組む。

・LRT導入後の交通ルールについて、「県央地域公共交通利活用促進協議会」などの既存の組織も活用しながら、周辺市町をはじめ、広域にわたって周知を図っていく。

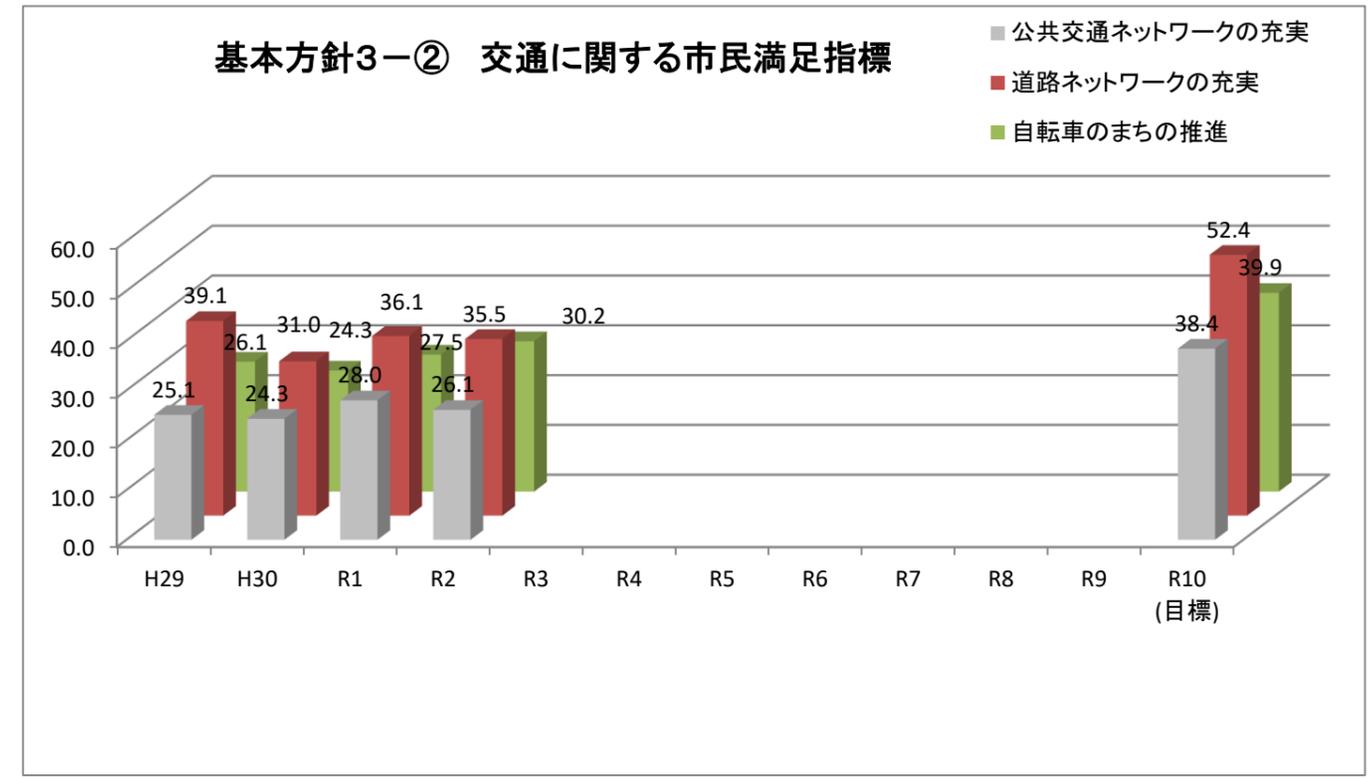
<3-(4)>自動車から公共交通へ移動手段を転換する

・交通ICカードの導入やバスの上限運賃制度の実施など、公共交通の新たなサービス導入と併せて効果的に公共交通利用への意識転換策を実施する。

※ 施策の評価及び施策の方針については、本資料及び資料4「具体的な施策事業個票」に基づき作成



JR・東武鉄道は当年1月～12月、バスは当年10月～翌年9月、地域内交通は当年4月～翌年3月の数値



「市政に関する世論調査(意識調査の結果)」で「満足」「やや満足」と回答した人の割合

